

全力で駆け抜けた12年間、解散、そして

12月29日のライブをもって、惜しまれながらも12年間の活動に幕を下ろし解散したケースケ&マサ。本号では、佐々木恵介さんと佐藤正昂さんに、ケースケ&マサとして活動してきた12年間を振り返り、そして解散について対談していただきました。

——今回、解散で12年間の活動に幕を下ろしたわけですが、今、漠然と思うことはありますか？

マ 残念ですね。

ケ 率直にね。ケースケ&マサとして音楽活動するなかで、いろんな人と出会い応援してくれる人が増えました。みんなに感謝したいです。

マ 20代はケースケ&マサが生活の一部で中心でしたから。一気に駆け抜けた感じがします。

ケ 最初は自分たちのことを誰も知らなかったですし、ライブに行くのも自分たちでお金を払って電車に乗って。路上ライブしたときは管理人っぽいおじさんに怒られたり、時には見逃してくれたら、本当にいろんな人に関わることができました。

——活動していくなかで知名度が上がったきっかけはありますか？

マ まずは「のど自慢」ですね。お互い出場していたことを知らないで本選まで残って「お前も出たの!?」みたいな。で、紹介されたときに「ケ

ースケ&マサです」って言っちゃって、そのときにバンド名が決まった感じがす（笑）

マ 本当は別の名前も考えていたんです。「どんぐり」とか。

ケ そのあとNHKに出演させていただきました。初テレビです。マ ラジオは地味に出演していて、ネイガールの前座とかもしていました。あとは何といても「全日本なまりうたトーナメント」。実は遊び感覚で出場したんですけど優勝しちゃって。そのとき自分は、はまなすで受付していましたし、お互いまだ仕事をしていたんですけど、やっぱりあれが大きなきっかけですね。

ケ そのとき、自分は工場で溶接してましたから。「えっ!?優勝したの!マジで!?」って感じでした。それから知名度が一気に上がって、それが自分も歌一本で行こうってなったきっかけですね。

マ マジっすか?!いいですよ。結局ネタになって面白かったんで。ケ 感動の対面だね。

——解散して、お互いのこれから決まっていますか？

マ 一回、白紙に戻します。そのあとにソロ活動、もちろん音楽方面ですけど、モチベーションと目標はゆっくり考えていきたいと思っています。

ケ 自分もソロ活動になります。もちろん音楽ですけど、歌う側だけじゃなく教える立場もありかなって考えています。

マ マジー先生なんの!?

ケ まあ、ちょっと声かけられてて勉強していきながらだけだね。マ それでもお互い共通しているのは地元にいるってことですね。

ケ 草野球チームも一緒だしね。マ 俺、野球下手だけどね。ケ でも、よくここまでやってこれたなって感じはするね。

マ 本当、そうだね。最初の始まりはケースケが授業中、歌詞書いていたんですよ。愛とか恋とか。それで歌出来たから聴いてくれ!って来たから兄ちゃんも聴きました。

ケ そう。それが最初のきっかけだったね。恥ずかしかったけど。マ あと、ケースケ坊主だったよね。ケ うん。坊主だった。それで愛とか恋とか歌ってたね。今思うと結構ヤバイよね（笑）

——特に印象に残っているライブはありますか？

マ 畑のハウスライブですね。北の方に呼ばれて行ったんですけど、どこを見てもライブ会場がないんです。教えられた場所には畑とビニールハウスしかなくて、「え!ここ!?!」。

ケ あれは凄かったですね。地面ビジョビジョだったし、「あのく音響は?」って聞いたらラジカセ渡されて…イスは丸太だし…。

——最後にファンの皆さんに伝えたいことはありますか？

ケ 皆さんのおかげで今まで活動できました。そして、いつも応援に来てくれて、ケースケ&マサを後押ししてくれたファンの皆さん本当に感謝しています。あつという間の12年間でした。ありがとうございます。

マ 本当にたくさんいい思い出ありがとうございました。いつもどおり近所のスーパーで買い物していきすから気軽に声をかけてください。

ケースケ&マサ 佐々木恵介 佐藤正昂



佐藤 正昂さん

佐々木恵介さん